

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神(こはく館)		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成31年1月	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心身の健康が維持され、「出来ること」を少しでも長く継続ができるように支援をしております。近隣に旭神中央公園があり盆踊りに参加したり、地域の行事や親睦会に参加をしております。平成25年より「みのりの会」も続いており、お食事やおつまみに工夫を凝らしノンアルコールビールと一緒に楽しませております。毎月レクリエーションもおこない、夏は外食・外出をし冬は室内でのミニ運動会やご家族様参加の忘年会もおこない楽しみの持てる時間が増えるように考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「GHユニティー旭神」は、近隣にスーパーマーケットや飲食店、菓子店など多くの商店がある生活の利便性に優れた住宅地に立地している。建物内は、畳敷きのスペースや浴室、トイレなどを中心に居室を配置した回廊式になっている。管理者を中心に利用者のよりよい生活を目指して職員間で率直に意見交換しながら、一人ひとりの利用者に応じた生活リズムで過ごせるように支援している。食事時間など、本人のリズムに合わせることで食欲が出てきた利用者もいる。地域とのつきあいでは、町内会の敬老会や盆踊りに参加したり、芸能の集いに出かけて老人会の出し物を見学している。また清掃活動後の親睦会で焼き肉やビンゴゲームなどを楽しんで地域住民と交流している。外出行事も多く、日常的に近隣の公園に出かけたり、川沿いを散歩して桜や紅葉など四季の変化を身近に感じながら穏やかな日々を過ごしている。職員と一緒にいちごケーキやお好み焼きを作るなど、自分のできることに参加しながらおやつを楽しんでいる。ユニット合同でのミニ運動会ではパン食い競争なども行われている。管理者と職員は、各利用者の自立に向けて優しいまなざしで見守りながら温かな支援を行っている。居室に飾られている敬老の日や誕生日、クリスマスなどに送られた立体的な手作りカードから職員の優しさや温もりも感じられる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域活動への参加を積極的に支援し地域に根差したサービスを提供』という事業所の運営方針に掲げ職員間で共有しています。	事業所独自の基本理念を基に、地域密着型を意識した4項目の運営理念を作成している。ミーティングで話したり、町内の行事に参加する時に再確認している。職員採用時に「新人の心得」と一緒に書面で渡して説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し資源ゴミへの協力や、町内清掃活動をおこなっています。芸能の集いや盆踊りにも参加しています。	町内会から敬老会の案内をもらって参加したり、盆踊りや親睦会など多くの行事に参加して交流している。管理者は町内会の班長も引き受けて地域との連携を深めている。今後は町内で活動するクラブの方々を招いて交流することも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての勉強会は開いていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています。不参加の家族には議事録を送っています。	地域役員や行政、家族も数名参加して避難訓練報告や口腔ケア、食事の提供形態の変更などについて説明している。参加者との意見交換も活発に行われている。会議案内と議事録は全家族に送付しているが参加者は固定化してきている。	事前にテーマを設定して、参加できない家族の意見を聞き取りながら会議に活かしたり、ミニ勉強会なども取り入れるような工夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に思ったことは、電話をし教えていただいています。	管理者は、書類の記入方法について確認したり、家族からの質問で分からないことがあれば市役所に電話で問い合わせたり訪問して相談している。保護課担当者に、利用者のマッサージの利用について相談したこともある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名の方が、ベット柵を使用し拘束をしていましたが、会議で検討し、赤外線センサーを代替とし拘束を終了しました。	「身体拘束・虐待防止の指針」を作成して3か月ごとに委員会を開催し、身体拘束実施のチェックシートを活用して事例検討や身体拘束の解除方法について話し合っている。現在1名のベッド柵の拘束があり、毎月対応を話し合い早めに解除する方法を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止の指針を職員で読み合わせをし、理解を深め、委員会では、各ユニットで虐待に値するものがあつたか話し合いをおこない委員会の議事録は職員に周知している。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』の講習会に参加しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約時に契約書・同意書の説明をし質問を受けながらおこなっております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や職員にも気軽に話していただけるように面会時にはご家族とのコミュニケーションをはかっています。	毎月、管理者と担当職員から本人の様子を広報誌で知らせている。家族面会時に本人の様子を話して意見や要望を聞き取り、連絡ノートに記載しているが、家族の些細な意見などは口頭で職員に伝えることが多くなっている。	家族の些細な意見や職員の気づきも個別に記録に残して、継続的に職員間で情報を共有するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ユニット会議をおこない意見があれば実践しています。	ミーティングや日々のケアの中で職員の意見を聞き取り、実施してみて継続するかどうかを検討している。その人らしい生活ができるよう利用者の行動を制限しないように、職員の提案を活かして安全な環境整備を考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護現場に入り一緒に働き、職員の勤務状況を把握したり6月・11月の人事考課に面談をおこない意見を聞き職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加や外部研修にも参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの合同で事例検討や救命講習を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて、まだ2ヶ月ぐらいの方で「帰るので電話を貸して欲しい」と毎日訴える方の話に耳を傾けながら、興味のあるバレーボールを一緒に行ったり、出来る事のお手伝いをさせていただき楽しみを見つけ安心出来るように心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来館時や電話でご家族の言葉を傾聴し良好な関係が保てるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の意見・状態を見て一番良い支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちを聴き一緒にできる事、運動、家事、(盛り付け、食器拭き、掃除)等行っています。又、入居者様が得意なことはスタッフが教わったり、お話を聴かせていただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には行事や日頃の様子をお伝えし、会話でご本人と共に過ごす時間が持てる様に支援しています。これからのケアも相談し一緒に考えていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人と外出をする方には本人の状態をお伝えし、外出の支援をお願いしています。馴染みの理美容院にも出かけています。	仕事関係の後輩が訪ねて来て一緒に出かけたり、外食や動物園などに外出する方もいる。職員と一緒に美容室に出かけたり、スーパーマーケットに買い物に行くこともある。家族と理容室や親族の見舞いに出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	様々な状態の方がいる中で、一緒にスポーツをしたり、ゲームをしたり、歌を歌ったりする場を作るようにし、コミュニケーションを取って頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	平成20年に退去された方とは電話・年賀状のやり取りをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望で居室でおやつを食べる方には、時間を決めて提供しお湯もポットに入れて渡しています。言葉が話せなく食べ物の好み分からない方には、大きく口を開け好んで食べるものを提供しています。	会話や行動、仕草などから読み取ったり、分からない時はケアの方法をいろいろ試してよりよい方法を検討している。利用開始時にセンター方式シートを活用して家族から情報を得ているが、定期的に更新は行われていない。	センター方式シート(B-3)を作成して本人の思いや意向の把握に活かし、介護計画書の1表も作成できるよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・本人より伺っています。『出来る事・出来ないことシート』で経過を見えています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録には本人の言動も記し職員間で共有しご家族にはひと月の様子を『今月の様子』として渡しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会時や電話で報告と次回のケアプランを説明し意見を伺っています。ユニット会議で本人の様子からサポートが必要な部分・維持できる部分等を話し合いケアプランを作成しています。	利用者担当職員を中心に3か月ごとに評価を行い、他の職員の意見も聞きながら新たな介護計画を作成している。計画の内容に沿って日々実施状況を確認しているが、更に介護計画の見直しに活かせるような記録方法を現在考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	『ケース記録』に個別の記録をしてケアの実践状況をわかる様にしているのと緊急性・重要性のあるものは『業務日報』の日中の様子・夜間の様子に個別に記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が地方にいる方や、家族の受診対応が難しい方には職員が対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	盆踊りや、芸能の集い等、地域の催しに参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族と本人の希望に沿うようになっています。本人に変化が見られる時は、主治医にお手紙を書き状態を伝えております。	事業所として2か所の協力医の往診を受けている。利用者の身体状況の変化に応じて家族と相談しながら対応可能な往診医に変更している。家族と受診する時は口頭や手紙で本人の状況を主治医に伝えている。受診と往診は個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週一回の健康チェックがあり、常に連絡できる体制になっており、体調の変化に応じて報告し指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介添書を作成して申し送りをおこなっています。入院中も様子を伺いご家族の意向を聞き取って介護・看護につなげています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は医師と家族とホームとで話し合っています。	「重度化した場合における(看取り)指針」を作成して、利用開始時に事業所として可能な対応について説明している。点滴など常時医療行為が必要になった時は事業所での対応が難しいことを伝えている。今後看取りに関する勉強会も検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルは見やすい所に提示しています。近隣ホームの方と一緒に救命講習を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練(年2回)はおこなっています。内1回は夜間想定で消防署立会いのもと町内会にも参加していただきおこないました。	年2回昼夜の火災を想定した避難訓練を実施している。うち1回は、消防署と地域住民の協力を得ている。事業所内の危険箇所を確認し、ケア別の対応についても職員間で話し合い、必要な物を準備している。災害時の防寒対策も進めている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る事・出来そうな事・出来ない事を見極めそれぞれの場面で不快にならないように伺いながら支援しています。	利用者をお願いした時は感謝の言葉を伝え、自信につなげている。法人の接遇研修などに参加し、他の職員の言葉がけで気づくこともあり、互いに学び合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・要望を伺って返答に困っているようなら二者選択出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や、気分などを考慮し本人の希望を聞いて体操や入浴、口腔ケアの声掛けをしています。年齢や、体調のせいで、寝ている時間が多くなった方には、その方のペースに合わせ食事を取って頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	脱衣所に櫛を用意し整髪出来る様にしています。毎日リップクリームで唇を保護しています。男性はシェーバーを渡し毎朝髭剃りが出来る様子を支援しています。髪をカールする方は、入浴後に巻いて頂いています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや、配膳等お手伝いいただき、一緒に食事を楽しみ、食器拭きも会話をしながら参加して下さる。みのりの会があり、鍋をしたり、お好み焼きを皆様で作って食べています。	届けられる調理済の料理に手を加えて食事を提供し、誕生日には献立を中止して本人の好きな料理を作っている。おやつのうちごケーキ作りなどに利用者も参加している。好みの弁当を持ってドライブに行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	意見箱の設置や職員にも気軽に話していただけるように面会時にはご家族とのコミュニケーションをはかっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの介助・見守りをしています。先に出来る事をしていただき最後は職員が仕上げ磨きをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	館内をうろついて迷っている方には、どうしたいか話を聞き、トイレ誘導をしています。訴えのない方には、時間を見ながらトイレ誘導を行っています。	ユニットごとに別シートのチェック方法で排泄を記録し把握している。立位が可能な場合は、日中はトイレでの排泄を支援している。自力でできる方にはパッドを手渡したり、日中と夜間でパッドを変えるなど見極めながら自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床後にヨーグルトを摂取したり、排便を促す為に体操や歩行運動もとりいれています。毎食の炊飯に粉寒天を入れて食物繊維を取るようにしています。飲み物にオリゴ糖を加えたりもします。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を入れ楽しんでもらったり、本人の希望に合わせてゆっくり入っていただいています。拒否がある方には翌日に延ばしたり順番を変えたりタイミングを図ってお誘いしています。	日曜日を予備日とし、午後の時間帯にその都度湯を交換して週2回の入浴を支援している。シャワー浴の方も、可能な時は職員2人介助で湯船に浸かっている。入浴を嫌がる方にも着替えの準備や安心できる職員の対応で入浴につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで昼寝をされたり午後より居室にて休まれるなど自由に過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	正確に服薬できるように見守り介助し身体状況の変化に注意を払っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の好きな方に唄っていただいて周りの方も参加して一緒に歌ったり、珈琲の好きな方には珈琲を提供しています。居室で過ごされている方には飲み物を届けています。縫い物が得意の方には雑巾縫いをして頂いています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価(こはく館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所を散歩しています。友人の支援で外食や絵画の展覧会・奥様との面会等おこなっています。	河川敷の歩道や公園を車椅子の方も散歩し、周囲の季節を感じている。銀座商店街の七夕飾りを見学したり町内会の行事に参加している。外出行事では、美瑛ふれあい牧場、上富良で紅葉見物、北彩都ガーデンで花々を鑑賞している。冬には初詣に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で、買いたいものを、お金を預かりスタッフが買って来たり、一緒に買い物に行けるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望があればすぐに対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温・湿度は1日2回確認し調整しています。季節ごとにリビング内を一緒に飾り付けています。	共用空間の廊下は回路式で居間の窓から光が入り、明るく広々としている。観葉植物や大きな雑壇が置かれている。玄関、廊下、居間などの壁には雪だるまなどの共同作品が飾られており、季節ごとに製作する作品に囲まれて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファで新聞を読んだり、音楽を聞いたり、和室では仲の良い方と洗濯物たたみ、テーブル席では、ゲームをしたり、ビデオ見たり長椅子でお昼寝したりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を育てていたり、家族の写真を飾ったり、テレビやテーブル、ポットを置いて自由にお茶を入れて飲めるようにしています。	居室に広い造りつけのクローゼットがあり室内は整頓されている。利用者の状態に合わせて布団で就寝する方や、家具類などの配置を工夫している。壁には家族の写真が飾っており、職員が工夫した誕生日、敬老会、クリスマスのお祝いカードは温かさを添えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー作りなので入浴時の移動や歩行器、車椅子での自走など自分の力で出来る様に支援しています。トイレ戸に「トイレ」と表記しトイレマークの絵も貼りわかりやすくしています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172902504		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームユニティー旭神(さんご館)		
所在地	旭川市旭神2条4丁目10番4号		
自己評価作成日	平成31年1月	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の心身の健康が維持され、「出来ること」を少しでも長く継続ができるように支援をしております。近隣に旭神中央公園があり盆踊りに参加したり、地域の行事や親睦会に参加をしております。平成25年より「みのりの会」も続いており、お食事やおつまみに工夫を凝らしノンアルコールと一緒に楽しませております。毎月レクリエーションもおこない、夏は外食・外出をし冬は室内でのミニ運動会やご家族様参加の忘年会もおこない楽しみの持てる時間が増えるように考えております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kani=true&JigyosyoCd=0172902504-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年2月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域活動への参加を積極的に支援し地域に根ざしたサービスを提供します、という運営方針に掲げ職員間で共有しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、資源ごみの協力に参加したり、町内のイベントへは参加できるようにしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々へ積極的に行っていませんでした。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、開催し町内の方、ご家族からの意見を取り入れています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問に感じたことは、直接市の窓口へ行き教えていただいています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については委員会を設置し3か月に一度開催し拘束について検討しています。両ユニットで各1名の方が拘束を終了しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は委員会や講習参加者の報告書を回覧し確認しています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	『成年後見制度』の講習会に参加し、後日、生活保護の方について市の担当者で話し合いをしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新規契約があり、契約時にはご家族の理解を得られたとおもいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日ごろから入居者様との話を汲みとり、面会時にはご家族とのコミュニケーションを大切にし気兼ねなくお話ししていただける雰囲気作りを心がけております。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているユニット会議で話し合いを行い良い方向に向かうように努めております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	6月・11月の人事考課時に面談を行い勤務環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(3か月・1年・2年)研修を社内で行っています。また外部研修も職員に回覧し参加しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと合同で事例検討や救命講習を開催しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	昨年8月に入居されていますが、ご家族からの情報を含め入居前・入居後の行動や発言を観察しながら安心していただけるように関係を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様の状況を面会時に報告し安心して話していただけるように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収集を含め、現在の入居者様の様子・変化を一番に考え介護計画に反映させています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の持つ力や考えを出せる機会を作り、生活の中に反映させています(工作や牛乳パック切り等)。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的なお手紙や面会時のお話等、色々な面から考えられるようにお話できる機会を作っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスへボランティアとして参加し、顔なじみの方との交流も行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	色々な性格や本人の状況の中で、職員が間にはいりコミュニケーションをとったり入居者様の希望を聞いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族より年賀状が届いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	小腹がすいた時の為に本人の好きなお菓子を用意したり、場面に応じて希望や想いを傾聴し、その都度、できるだけ優先するようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の状況をセンター方式をご利用ご家族に協力いただいたり、担当ケアマネージャーからの情報を利用しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の行動・言動・健康状態等、毎日の様子は介護記録に残し職員間で共有しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族の希望、要望、意見を尊重し、3か月毎に計画を見直しミーティングで話し合い次に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録には、介護計画とともに日中・夜間の状況が分かるように記録していき、職員間で共有し、検討しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設のデイサービスへボランティアとして麻雀にいかれたりして楽しみがもてる方もいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の敬老会への参加のお誘いをいただいています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診介助や医療連携の病院での対応もしており、入居者様の訴えや変化がある時は家族の許可をいただき動画撮影をし主治医に状況を確認していただいています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による週一回の健康チェックがあり、常に連絡できる体制になっており、体調の変化に応じて指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供をし、ご家族と連絡をとり面会に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化に応じて、医師・ご家族と今後について話し合いをもちます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習への参加や非常時対応マニュアルを用意しています。ホームにAEDも設置しており使い方も学んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っています。火災・水害・夜間想定訓練をおこないました。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれの性格や心身の状態を考慮し、不快な気持ちにならないように配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・意見を聞き、自己選択・自己決定できるような声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたいと希望があれば臥床介助をおこない、入居者様ひとりひとりのペースに合わせて声をかけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・ご家族の希望に合わせて訪問理容を行っています。髭や爪等も配慮し確認します。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け等、出来る方には手伝っていただいています。お盆を拭いたりテーブルを拭いたり、洗濯物たたみ等できる力を発揮しています。みのりの会には食べたい物をお聞きし提供しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食分量・水分量を記録し状態を把握していません。嚥下の様子を見て、とろみを使用しています。液体でむせる時は寒天で固めて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけをし、仕上げ磨きの介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄ができるように、時間をみて声かけをしたり、行動を観察しながら誘導したりしていません。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や歩行を促し体をうごかすよう声かけを行っています。野菜ジュースや牛乳や食物繊維が豊富な食事も考慮しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や希望を聞き週2回以上入浴できるように案内しています。希望により、時間をずらしたり別の日になることもあります。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や気持ちに合わせて、居室で休まれたりリビングのソファで休まれたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の説明書をファイルに収め、変更が或る時には記録に残して情報の共有をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「手伝うよ」とおっしゃる方に洗濯物干し・たたみ食器拭き等をお願いし、歌の好きな方には職員も交えて唄っています。		

グループホーム ユニティー旭神

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	窓から見える家が自宅だと思う方で「車が止まっている」と気になる時は外絵へ確認にいたり、天気の良い日は散歩に出かけます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はご自分でお金を管理されている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「娘に電話をしてくれ」と時々要望があり、本人の要件をお伝えしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温・湿度を適温に保ち、換気も行います。季節に応じて掲示物や装飾も変化をつけています。3階なので周りに建物が少なく日当たりが良いです。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は決まっていますが、状況に応じて空いている場所に移動し入居者様同士でお話をすることもあります。のんびりソファで休まれたりすることもあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や小物を置いている方も沢山いて、安心されている様子です。お花や家族写真等、個々に応じて好みの物を置いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子使用の入居者様が多いので、安全に移動できるように館内はバリアフリー仕様なと通路に物をおかないように充分配慮しています。全域に渡って手すりも付けられています。		

目標達成計画

事業所名 グループホームユニティ旭神

作成日：平成 31年 3月 20日

市町村受理日：平成 31年 3月 29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	毎月、管理者と担当職員から本人の様子を広報誌で知らせている。家族面会時に本人の様子を話して意見や要望を聞き取り、連絡ノートに記載しているが、家族の些細な意見などは口頭で職員に伝えることが多い。	家族の些細な意見や職員の気づきも個別に記録に残して、継続的に職員間で情報を共有するようにしていく。	個別にファイルを作り、家族の意見や職員の気づきを記入していき新人職員が過去の情報も共有できるようにする。	1年
2	23	会話や行動、仕草等から読み取ったり、分からない時はケアの方法を色々試して、よりよい方法を検討している。利用開始時にセンター方式シートを活用して家族から情報を得ているが、定期的に更新は行われていない。	センター方式シート(B-3)を作成して本人の思いや意向の把握に活かし、介護計画書の1表も作成する。	センター方式シート(B-3)・介護計画書1表を作成し本人の思いや意向を把握していく。	1年
3	4	参加者との意見交換は活発に行われている。会議案内と議事録は全家族に送付しているが参加者は固定化してきている。	事前にテーマを設定して、ミニ勉強会を行う。	参加できない家族の意見を聞き取りながら会議に活かしたり、参加者の家族と相談しミニ勉強会を行っていく。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。